

## 学 則

1 事業者の名称及び所在地	学校法人鶴嶺学園 神奈川社会福祉専門学校 〒254-0046 神奈川県平塚市立野町1-1
2 研修事業の名称	秦野市 生活援助従事者研修通信課程
3 研修課程及び形式	生活援助従事者研修課程 ( 通学 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">通信</span> )
4 開講の目的	<p>少子高齢社会の今日、介護を必要としている高齢者及び障害を持つ人の支援を目指す人材を拡大し、将来の介護実践者を養成する。</p> <p>支援者として、支援を必要としている人への人間尊重と実践能力について研修において学び、社会貢献できる人材を養成する。</p>
5 研修責任者及び研修コーディネーターの氏名 研修担当部署 研修担当者及び連絡先	<p>研修責任者 石川 よし子</p> <p>研修コーディネーター : 石川 よし子</p> <p>研修担当部署 学校法人鶴嶺学園 神奈川福祉専門学校</p> <p>事務所: 神奈川県平塚市立野町1-1</p> <p>電話番号: 0463-30-3231</p> <p>FAX 番号: 0463-30-6595</p>
6 受講対象者(受講資格)及び定員	<p>秦野市在住・在勤で、介護・福祉に興味があり関連する職種に就くことを希望し、全日程に出席できること。</p> <p>定員 24名</p>
7 募集方法(募集開始時期・受講決定方法を含む) 受講手続及び本人確認方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般公募を行う。</li> <li>開講日の概ね2か月前より募集開始し、秦野市役所ホームページ・広報紙秦野・タウン誌等に募集広告を掲載する。</li> <li>・受講問い合わせには、受講案内(学則を含む)・日程表・会場案内図申込書を送付する。申込者には、受講決定通知書・受講の手引き・オリエンテーション案内・受講料支払い依頼書を送付する。</li> <li>・手引書には、本人確認として運転免許証・健康保険証・国家資格等公的証明書のコピー提出を求め、本人確認後コピーの保管。</li> <li>・定員になり次第締め切り</li> </ul>
8 受講料、テキスト代 その他必要な費用	<p style="text-align: center;">3,300円</p> <p>(内訳) ・受講料 0円</p> <p style="padding-left: 20px;">・テキスト代 3,300円</p>
9 研修カリキュラム	別紙様式4-2のとおり
10 通信形式の場合 その実施方法 ・添削指導及び面接指導の実施方法 ・評価方法及び認定基準 ・自宅学習中の質疑等への対応方法	<p>①科目別に作成された通信課題(添削問題)の解答を、指定テキスト等を参考に指定期日までに提出する。</p> <p>②担当講師は提出された解答を添削し評価点数を決め、受講者に公表する。通信課題の解答解説書を添付して受講者に返却し、理解度を深め、評価基準を満たさない受講生については、再提出させ通学時に面接指導を行う。</p> <p>③評価得点の高い順にA・B・C・Dの4区分で評価し、C以上の受講者が評価基準を満たしたものとする。Dの受講生の場合は、通信課題(添削問題)を再提出させ評価基準を満たすように指導する。A=90点以上、B=80~89点、C=70~79点、D=70点未満</p> <p>④受講者が自宅学習中に生じた質問に対して、FAXあるいはメールで担</p>

	当講師が対応し、指導を行う。
11 研修会場 (名称及び所在地)	神奈川県秦野市保健福祉センター 3階 〒257-8501 神奈川県秦野市緑町16番3号
12 使用テキスト (副教材も含む)	株式会社 日本医療企画「生活援助従事者研修テキスト」 初めて学ぶ生活援助
13 研修修了の認定方法 (習得度評価方法含む)	<p>習得度評価について</p> <p>(1) 技術演習における習得度評価 「こころとからだのしくみと生活支援技術」の各項目の演習及び「総合支援技術演習」について、各演習時間内に技術習得度の評価を行う。チェックリストによりA～Dの区分で評価を行う。C以上の者を一定のレベルに達している者とする。 (評価区分) A：基本的な援助ができています B：基本的な援助が概ねできています C：指導すれ出来る D：全くできない</p> <p>(2) 講義における知識習得度 全科目終了時に0.5時間の修了筆記試験を実施する。評価基準によりC以上を評価基準を満たしたものとして認定する。 別紙修了評価筆記試験問題により知識習得度評価は以下の通りとする。 A=90点以上、B=80～89点、C=70～79点、D=70点未満</p> <p>(3) 終了認定 全日程出席し全科目を受講した上で、上記(1)(2)の評価が評価基準を超えている受講者に対し、修了証明書を発行する。</p> <p>(4) 終了評価で基準の以下の時の取り扱い 担当講師による補講の上、再試験を実施する。 再試験のための補講及び再試験にかかる費用は無料とする。</p>
14 欠席者の取り扱い(遅刻・早退の扱い含む) 補講の取り扱い (実施方法及び費用等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由の如何にかかわらず原則10分以上の遅刻、早退は欠席とする。</li> <li>・やむを得ない事由により研修の一部を欠席した場合は、補講を実施し受講する。</li> <li>・補講の実施は、原則として当学校において実施する同カリキュラムのコースと同じ講義を振替受講で実施する。補講料は、無料とする。</li> <li>・再履修の基準・・・やむを得ない事由により受講が出来なかった科目については、再履修(以下補講と言う)にて単位を取得できる。</li> <li>1. 補講を受ける者には、補講カードを発行する。</li> <li>2. 補講カードには、科目・項目名・受講日・会場日時等必要事項を明示する。</li> <li>3. 補講は、科目・項目が全て終了後、無料で実施する。</li> <li>4. 補講を実施する期間は原則開講日から4ヶ月以内に実施する。 但し、受講者の病気等やむを得ない理由による場合は、8ヶ月以内に実施する。</li> <li>5. 補講科目は、講座の担当講師と同一講師で補講する</li> <li>6. 終了時に於いて習得度が十分でない受講生に対しては、補講を実施し、基準に達するようにする。</li> </ul>
15 科目免除の取り扱いとその手続き方法	実習先と認められている施設、事業所(介護保険施設・障害者施設)において過去3年間に1年以上(通算180日以上)の実務経験がある者について実習を免除します。

16 解約条件及び返金の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者からの解約 やむを得ない事情と判断された場合は、テキスト代金として3,300円の納金を求める。その際は、テキストは、受講者に送付する。</li> <li>・当学校からの開講中止 原則として、当学校からの中止はない。 但し、応募者が少数の場合は、秦野市との話し合いから、中止の検討を行う。 受講態度が不良等により研修に支障をきたすと判断された場合は、退学を求める。</li> </ul>
17 情報開示の方法 (ホームページアドレス等)	<p>秦野市役所、市のホームページに、以下の内容を情報開示する。  <a href="http://www.city.hadano.kanagawa.jp">http://www.city.hadano.kanagawa.jp</a>          学校法人鶴嶺学園 神奈川福祉専門学校  <a href="https://www.kanafuku.ac.jp/">https://www.kanafuku.ac.jp/</a>          研修期間情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人情報：法人格・法人名称・住所・代表者名・研修担当者名</li> <li>・研修機関情報：事業所名称・住所・理念・学則・研修施設</li> </ul> <p>1. 研修事業情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の概要：対象・研修のスケジュール（機関、日程、時間数） 定員と指導者数・研修受講までの流れ（募集、申込）・費用 留意事項・研修の特徴・受講者へのメッセージ</li> <li>・課程責任者：課程編集責任者</li> <li>・研修カリキュラム：科目別シラバス・科目別担当講師名・科目別特徴 演習実施内容・備品・指導体制</li> <li>・終了評価：全科目受講出席・課題の提出と達成・演習における知識と技術の習得 認定は各担当講師が行う。 再度習得が必要な場合は、各講師による補講の実施</li> </ul> <p>2. 講師情報：名前・略歴・現職・資格</p> <p>3. 実績情報：研修実績（年度ごと）・実績研修延べ人数</p> <p>4. 連絡先等：申し込み・資料請求先・法人の苦情対応者名・役職・連絡先 事業所の苦情対応者の役職、連絡先</p>
18 受講者の個人情報の取り扱い	<p>受講者の個人情報について 登録された個人情報については、正確な保護と法令を遵守した管理を行い、本講座の円滑な運営のために利用致します。 なお、終了者名簿は、介護保険法施行令第3条第2項イの規定により県に提出いたします。</p>
19 修了証明書を亡失・き損した場合の取扱い	<p>亡失、き損した場合、受講者本人の申請により再交付する。 手数料： 1,000円</p>
20 その他研修実施に係る留意事項	<p>退校処分への取り扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲が著しく欠け、終了の見込みがないと認められる場合。</li> <li>・研修の秩序を乱し、他の受講者への講義に妨げになっている場合。</li> </ul>

## 生活援助従事者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 学校法人鶴嶺学園 神奈川社会福祉専門学校

研修事業の名称 秦野市 生活援助従事者研修通信課程

1 職務の理解 ( 2 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	1 時間	<p>《講義内容》</p> <p>以下の事項について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 超高齢社会の日本の現状から、介護保険制度の創設の背景と意義を学ぶ</li> <li>・ 多様なサービスについて学ぶ</li> </ul> <p>介護保険サービス（居宅、施設、地域密着型）の理解</p> <p>介護保険外のサービスの理解</p>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	1 時間	<p>《講義内容》</p> <p>以下の事項について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問型サービスと通所型サービスの特徴と利用者像について学ぶ</li> <li>・ 福祉用具サービスの特徴と利用者像について学ぶ</li> <li>・ 訪問介護サービスの目的と役割について学ぶ</li> <li>・ 生活援助と身体介護のサービス区分の理解</li> <li>・ 生活援助従事者の職務の理解、求められるスキルと姿勢について学ぶ</li> </ul> <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護現場の映像を観て、介護サービス利用者及び各事業サービスについて、グループで話し合う。</li> </ul>
合計	2 時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間 数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	時間  4	時間  3	時間  1	2章 問題 1 2 3 4	<講義内容> 以下の事項について学ぶ ・「人権と尊厳」について学ぶ 個人としての尊重、日本国憲法、 アドボカシー、エンパワーメントの視点 実際の役割と尊厳、利用者のプライバシー ー保護について ・ICF（国際生活機能分類）について学ぶ 介護におけるICFの理解 ・QOLの考え方（生活の質）の理解 ・ノーマライゼーションの考え方の理解 ・虐待防止・身体拘束禁止の理解 ・個人の権利を守る制度の概要の理解 <演習内容> ・人権の尊重、虐待防止、高齢者養護に関 する事例についてグループで話し合う。 <通信課題ポイント> ・利用者の権利と尊厳について ・ICF（国際生活機能分類）、QOL（生活の 質）、ノーマライゼーションについて ・虐待防止・身体拘束禁止の理解 ・人権と尊厳を支える介護の視点について ・自立支援について
②自立に向けた介護	時間  2	時間	時間  2	2章 問題 5 6 7 8	<通信課題ポイント> ・個別ケア、重度化の防止について ・介護予防について ・自立と自律について
合計	6	3	3		

3 介護の基本（4時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	時間  1.5	時間  0.5	時間  1	3章 問題 1 2 3	<p>《講義内容》</p> <p>以下の事項について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護環境の特徴の理解する 地域包括ケアシステムの生活支援サービスを理解する</li> <li>・介護の専門性の理解する 重度化防止・遅延化の視点を学ぶ 利用者主体の支援姿勢 自立した日常生活を支えるための支援と根拠のある介護、チームケアの重要性・事業所内のチーム</li> <li>・介護にかかわる職種の理解 異なる専門性を持つ多職種 ケアマネジャー・サービス提供責任者の役割</li> </ul> <p>《通信課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の専門性について</li> <li>・介護にかかわる職種について</li> <li>・介護におけるチームの役割</li> </ul>
②介護職の職業倫理	時間  1	時間  	時間  1	3章 問題 4 5 6	<p>《通信課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本介護福祉士会倫理綱領について</li> <li>・介護職としての社会的責任</li> <li>・介護職の職業倫理</li> </ul>

<p>③介護における安全の確保と リスクマネジメント</p>	<p>時間 1</p>	<p>時間 1</p>	<p>時間</p>	<p>《講義内容》 以下の事項について学ぶ ・介護における安全の確保について 理解する     事故に結びつく要因を探り、生活     を守る技術として、危険因子の特     定と発生予防として「ハザード」     と「リスク」を理解する     身体介護の技術を持たない人が介     助するリスクについて理解する ・事故予防・安全対策     リスクマネジメント（予防対策）     事故に至った経緯の報告（家族へ     の報告、市町村への報告等）・情報     の共有 ・感染対策について 《演習内容》 ・手洗いの基本、うがいについて、 各自で手順を確認する</p>
<p>④介護職の安全</p>	<p>0.5</p>		<p>0.5</p>	<p>《通信課題ポイント》 ・介護職の心身の健康管理 ・感染予防における手洗い・うがい</p> <p>3章 問題 7 8 9</p>
<p>合計</p>	<p>4</p>	<p>1.5</p>	<p>2.5</p>	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 ( 3 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	時間  1	時間  1	時間		<<講義内容>> 以下の事項について学ぶ ・介護保険制度の背景および目的、 動向について学ぶ 介護保険制度の背景とケアマネジメント 予防重視型システムへの転換 地域包括支援センターの設置と地 域包括ケアシステム ・介護保険制度のしくみの基礎的理 解について学ぶ。 介護保険制度の基本的しくみと介 護給付とサービスの種 類、介護予防、要介護認定手続き ・制度を支える財源、組織、団体の 機能と役割を学ぶ ・財政負担と指定介護サービス事業 者の指定について学ぶ <<演習内容>> ・要介護認定の手順をグループで話 し合い確認する。
②医療との連携と リハビリテーション	時間  1	時間	時間  1	4章 問題 1 2 3	<<通信課題ポイント>> ・訪問看護のサービス内容 ・訪問リハビリのサービス内容 ・訪問リハビリについて
③障害福祉制度およびその他の制 度	時間  1	時間	時間  1	4章 問題 4 5 6	<<通信課題ポイント>> ・障害者総合支援法における福祉サ ービスの利用 ・個人の権利を守る制度について ・障害者福祉制度について
合計	3	1	2		



5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	時間  3	時間  1.5	時間  1.5	5章 問題 1 2 3 4	<p>《講義内容》</p> <p>以下の事項について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割</li> <li>・コミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感についての対応を理解する。</li> </ul> <p>言語的コミュニケーションの特徴と非言語的コミュニケーションの特徴とコミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーションを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者・家族とのコミュニケーションの実際</li> <li>利用者思いを把握する・意欲の低下を考える・利用者の感情に共感する</li> <li>家族の心理的理解と家族へのいたわりと励ましから信頼関係の形成し、自分の価値観で家族の意向を判断し非難しない</li> <li>・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</li> <li>障害に応じたコミュニケーション聴覚障害・視覚障害・失語症・構音障害・認知症等に応じたコミュニケーション技術を理解する</li> </ul> <p>&lt;演習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が生活意欲の低下等の事例をグループでの話し合いとロールプレイを行う</li> <li>・障害者とのコミュニケーションの取り方の演習する</li> </ul> <p>《通信課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護におけるコミュニケーションの意義</li> <li>・利用者・家族とのコミュニケーションの実際</li> <li>・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・傾聴の姿勢</li> </ul>

②介護におけるチームのコミュニケーション	時間 3	時間 1.5	時間 1.5	5章 問題 5 6 7 8	<p>《講義内容》</p> <p>以下の事項について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における情報の共有化の重要性を理解する。 介護に関する記録の種類、ヒヤリハット報告書</li> <li>・報告・連絡・相談（ホウレンソウ）について学ぶ 報告の留意点、連絡の留意点</li> <li>・コミュニケーションを促す環境づくりを理解する。 会議の目的と意義 情報共有の場と役割の認識の場 サービス担当者会議の重要性を理解する</li> </ul> <p>&lt;演習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム中での介護職の専門性と役割についてグループで話し合い、他のグループで話し合った内容について共有する。</li> </ul> <p>《通信課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録の意義・目的の理解</li> <li>・報告・連絡・相談（ホウレンソウ）の重要性</li> <li>・会議の目的と意義</li> <li>・報告の義務とその内容について</li> </ul>
合計	6	3	3		

6 老化と認知症の理解 ( 9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①老化に伴うこころとからだ の変化と日常	時間  2	時間	時間  2	6章 問題 1 2 3 4	<<通信課題ポイント>> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴を理解する。 ・老化に伴う身体的機能の変化について ・老化に伴う精神的機能の変化について ・ADL について
②高齢者と健康	時間  2	時間  2	時間		<<講義内容>> 以下の事項について学ぶ ・高齢者の疾病と生活上の留意点 高齢者の疾病の特徴 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点を理解する。 循環器障害と危険因子、老年期うつ症 ・症状の小さな変化に気づく視点を理解 <<演習>> 高齢者の日常生活の留意点をグループ討議する
③認知症を取り巻く状況	時間  1	時間	時間  1	6章 問題 5 6 7	<<通信課題ポイント>> ・認知症ケアの基本的視点について ・パーソンセンタードケアの考え方

④医学的側面から見た認知症の基礎的理解	時間 2	時間 1	時間 1	6章 問題 8 9 10	<<講義内容>> 以下の事項について学ぶ ・認知症概念、認知症の定義を知る。 ・認知症の原因疾患とその病態を理解する。 アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症・レビー小体型認知症・その他の認知症 <<通信課題ポイント>> ・認知症の概念について理解する ・認知症の原因疾患 ・アルツハイマー型認知症の主症状について理解する
⑤認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	時間 1	時間 1	時間		<<講義内容>> 以下の事項について学ぶ ・認知症をもつ人の生活障害、行動、心理の特徴を理解する。 認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状（BPSD）と不適切なケア、生活環境への改善 ・認知症の利用者への対応と進行に合わせたケアを理解する。 <<演習>> 物忘れと認知症による記憶障害との違いについて、グループで話し合う。
⑥家族の支援	時間 1	時間	時間 1	6章 問題 11 12 13	<<通信課題ポイント>> ・認知症の受容過程での家族への支援について ・レスパイトケアについて ・通所介護によるレスパイトケア
合計	9	4	5		

7 障害の理解 ( 3 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	時間  1	時間  0.5	時間  0.5	7章 問題 1 2 3	<p>《講義内容》</p> <p>以下の事項について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の概念と ICF</li> <li>・ ICF の分類と考え方を理解する。</li> <li>・障害者の基本理念、ノーマライゼーションの理念を理解する。</li> </ul> <p>《通信課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICF の分類と考え方を理解する。</li> <li>・ノーマライゼーションの理念を理解する。</li> <li>・ ICF の生活機能と障害の捉え方</li> </ul>
②障害の医学的側面、生活障害、心理、行動の特徴 かかわり支援等の基礎知識	時間  1.5	時間  1.5	時間		<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害、聴覚・平衡機能障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害について理解する。</li> <li>・知的障害</li> </ul> <p>知的能力の発達の遅れによる社会的適応への困難を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害を持つ人、統合失調症、気分障害、依存症、高次脳機能障害、発達障害、その他の精神疾患（神経症）への正しい理解をする。</li> </ul> <p>&lt;演習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害者等の対応方法について、グループで話し合う。</li> </ul>
③家族の心理、かかわり支援の理解	時間  0.5	時間	時間  0.5	7章 問題 4 5 6	<p>《通信課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受容課程について</li> <li>・家族の介護負担軽減について</li> <li>・家族の支援について</li> </ul>
合計	3	2	1		

8 こころとからだのしくみと生活支援技術 ( 26 時間)						
	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
基本知識の学習	①介護の基本的な考え方	時間 1	時間 0.5	時間 0.5	8章 問題 1 2 3	<<講義内容>> 以下の事項について学ぶ ・理論に基づく介護 ICF の視点に基づき、利用者の望む生活が実現できる介護について理解する。 法的根拠に基づく介護を理解する <<通信課題ポイント>> ・介護の基本的な考え方 ・介護保険法における介護の在り方 ・我流ケアの排除
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	時間 1	時間	時間 1	8章 問題 4 5 6	<<通信課題ポイント>> ・感情と意欲の基礎的知識を知り、感情・思考・意欲の関係を理解する。 ・老化期のこころのしくみについて ・老年期の生きがいの意味について
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	時間 2	時間	時間 2	8章 問題 7 8 9	<<通信課題ポイント>> ・老年期のからだのしくみについて ・ボディメカニクスについて
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	時間 2	時間 1	時間 1	8章 問題 10 11 12	<<講義内容>> 以下の事項について学ぶ ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的理解と生活支援 ・生活歴           ・自立支援 ・予防的な対応 ・主体性能動性を引き出す <演習> ・カロリー計算の実際をグループで行う <<通信課題ポイント>> ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援について ・家事援助に対する介護職の捉え方

⑤快適な住環境整備と介護	時間 2	時間 1	時間 1	8章 問題 13 14 15	<<講義内容>> 以下の事項について学ぶ ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障害者特有の居住環境と整備、福祉用具を活用とした支援 <演習> ・事例別に福祉用具の対応計画の作成 <<通信課題ポイント>> ・快適な居住環境について ・高齢者・障害者特有の居住環境について ・居住環境の整備の意味
⑥移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	時間 4	時間 3	時間 1	8章 問題 16 17 18	<<講義内容>> 以下の事項について学ぶ ・移動・移乗の意義と目的を理解し、社会とのつながりが得られるための支援を知る。 ・移動・移乗を阻害するところとからだの要因を理解し、様々な移動・移乗に関する用具とその活用方法を知る。 ・残存能力を活用し、自立を促すための留意点を知る。 ・利用者の自然な動きを活用し、利用者・介助者にとって負担の少ない介助方法や、ボディメカニクスの活用、見守りについて理解する。 <演習> ・一部介助を必要とする利用者の車いす介助方法を二人一組で行い、安全な移動・移乗支援の留意点を理解する。 ・歩行器・杖の使い方を二人一組で行い、留意点を理解する。 <<通信課題ポイント>> ・移動・移乗に際しての利用者状態を理解し、適切な福祉用具が解る。 ・移動・移乗に際しての留意点 ・移動と移乗の違い

⑦食事に関連したところ とからだのしくみと自立 に向けた介護	時間 4	時間 2	時間 2	8章 問題 19 20 21	<<講義内容>> 以下の事項について学ぶ ・食事に関する基礎知識（食事の意義、栄養）について理解する。 ・食事とからだのしくみを理解し、安全においしく食事をするために食事環境についての留意点を知る。 ・利用者自ら食事ができるように、福祉用具・食べ物の形態を知る。 楽しい食事を阻害するところとからだの要因を理解と支援方法を理解する。 ・口腔ケアの意義と口腔ケアの注意点を理解する。 <演習> ・各自で水分を飲んでみる、食事の姿勢を様々体験して、誤嚥について理解する。 ・二人一組で、様々な障害を想定した事例から、食事介助を行う。 <<通信課題ポイント>> ・食事の栄養について ・安全に食事を摂る方法 ・その人らしい食生活
⑧睡眠に関連したところ とからだのしくみと自立 に向けた介護	時間 4	時間 3	時間 1	8章 問題 22 23 24	<<講義内容>> 以下の事項について学ぶ ・睡眠に関する基礎知識を理解する。 ・睡眠の役割、様々な睡眠環境と用具の活用方法を知り、快適な睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法を理解する。 <演習> ・シーツの整え方・シーツ交換を各自行う。 ・褥瘡予防と寝具と就寝時の衣類の整備について体験する。 <<通信課題ポイント>> ・睡眠に関する基礎知識 ・安眠のための工夫 ・体内時計の働き
⑨死に行く人に関したところ とからだのしくみと 終末期介護	時間 1	時間 1	時間		<<講義内容>> 以下の事項について学ぶ ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ・生から死への過程 ・死に向き合うところの理解 ・苦痛の少ない死への支援 <演習> ・多職種間の情報共有の必要性について話し合いを行う



演習 生活支援技術	⑩介護過程の基礎的理解	時間 3	≪講義内容≫ 以下の事項について学ぶ ・介護過程の目的・意義・展開方法を理解する。 ・介護過程とチームアプローチ（多職種連携）を理解する ≪演習≫ ・提示した事例に基づいて、個別支援計画を作成する
実習		時間 2	介護老人福祉施設、通所介護事業所等にて、介護施設、介護事業所での支援方法及び移動・移乗の介護支援技術を理解する。
	合計	26	
9 振り返り（2時間）			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り		時間 1	≪講義内容≫ 以下の事項について学ぶ ・生活援助従事者研修を通して、学んだこと、習得したことの再確認を行う。 ≪演習≫ ・研修した以下の項目について、グループで話し合う。 根拠に基づく介護についての要点 利用者の状況に応じた介護と介護過程 チームアプローチの重要性 こころとからだのしくみと生活支援技術
②就業への備えと研修修了後における継続的な		1	≪講義内容≫ 以下の事項について学ぶ ・継続的に学ぶこと、研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできる。 ≪演習≫ ・事例から、専門職としての課題をグループ討議する。
	合計	2	
全カリキュラム合計時間		61時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること